

2024 年第 2 回 Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2024 年 7 月 5 日（金）13:30～17:00

場 所：千歳アルカディア・プラザ

出席者：宮永 Chair、原崎 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer、五十嵐 札幌支部 Chair、村岡 仙台支部 Chair、湯川 信越支部 Chair、佐田 東京支部 Vice Chair、植村 東京支部理事、Kawamoto 東京支部理事、 河口 名古屋支部 Secretary、梶川 関西支部 Chair、丹治 四国支部 Chair、増田 広島支部 Chair、早見 福岡支部 Secretary、高村 COC Chair、小澤 SAC Chair、浅井 AC Chair、橋本 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、白川 HC Chair、久本 LRSC 理事、津田 LM Coordinator、大野 PC Chair、塩見 YP Coordinator、大越 EA Coordinator、井上 WIE Coordinator、福田 IEEE Past President、鈴木 IEEE Industry Engagement Committee Member、杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member、西原 IEEE Region 10 Past Director、尾上 IEEE Region 10 Vice-Chair of Technical Activities、矢野 2023 R10 HTAC Chair、杉山 IEEE Fellow Committee Member、滝嶋 HTC 運営委員長、真田 札幌支部 MD 担当、角 札幌支部オブザーバー、筒井 札幌支部オブザーバー

（現地参加 39、オンライン 3 名）

事務局：加藤事務局員

幹事会社：金、木村

【議題】

1. 前回理事会議事録の確認（審議）
2. 2024 年 Japan Council 理事会構成（報告）
3. 2025/2026 年役員選出について（審議）
4. 2024 年中間会計報告および予算修正（予算修正のみ審議）
5. 各支部 2024 年前回理事会以降の活動報告
 - 5-1 仙台支部
 - 5-2 信越支部
 - 5-3 東京支部
 - 5-4 名古屋支部
 - 5-5 関西支部
 - 5-6 四国支部
 - 5-7 広島支部
 - 5-8 福岡支部
6. 札幌支部の最近の活動ご紹介

7. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 7-1 Chapter Operations Committee
 - 7-2 Student Activities Committee
 - 7-3 Awards Committee
 - 7-4 Industry Promotion Committee
8. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 8-1 Long Range Strategy Committee
 - 8-2 History Committee
 - 8-3 Awards and Recognition Committee
 - 8-4 Fellow Elevation Supporting Committee
 - 8-5 Promotion Committee
9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
 - 9-1 Membership Development
 - 9-2 Young Professionals
 - 9-3 Life Members
 - 9-4 Educational Activities
 - 9-5 Women in Engineering
10. その他
 - 10-1 SYWL2024 報告
 - 10-2 HTC2025 報告
 - 10-3 Japan Council 感謝状について
 - 10-4 MGA Award と Senior Member 申請関連のスケジュール
 - 10-5 VIC2025 の報告

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

南 ARC Past Chair の急逝を悼み黙祷

宮永 Chair より挨拶があった。

【議事】

1. 前回理事会議事録の確認【審議】

資料 (1)

報告：奥村 Secretary

前回理事会の議事録確認。

質疑応答では伊良皆 Chair の表記が Secretary になっているとの指摘があり、奥村 Secretary より修正するとの回答があった。

審議：異議なしで承認された。

2. 2024 年 Japan Council 理事会構成（報告）

資料（2）

奥村 Secretary より資料に沿って説明があった。

南 ARC Past Chair のご逝去にともない、後任は大野 PC Chair になることがメール審議で承認されたことの報告。

3. 2025/2026 年役員選出について（審議）

資料（3）

Nominating Committee として重松 Past Secretary より、以下のとおり説明があった。

IEEE JC の Bylaws、JC の運営の細則及び JC Nominating Committee 運営の細則については、昨年の第 3 回 JC 理事会で提示し、前回の理事会で推薦により役員候補者が選出された。NC のメンバーで議論した上で、資料にある候補者を推薦する。今回の理事会で候補者を承認してほしい。Chair と Vice Chair に関しては複数名いるため、承認後、投票となる。今後の予定は、8 月初旬に候補者の所信表明とともに選挙の 6 週間前に Council の Voting Member に報告する。9/20 を締切として選挙を行うが、選挙は Council Chair が理事の中から指名した 3 名によって構成される Tellers Committee（選挙管理委員会）によって行われる。10 月中旬に選挙結果を理事会にメールで報告する。今回の JC の細則をみると、IEEE の Bylaws にそぐわない内容になっていたため、見直しを検討中。次ページに Voting Member から 100%、何らかの回答をもらえたことに加え、理事の推薦も 2 名あった。

質疑応答では、Petition を実施するののかについての質問があり、重松 Past Secretary より、今回は実施せず、本件は次期担当者に引き継ぎ速やかに対応するとの回答があった。

審議：全員一致で承認された。

4. 2024 年中間会計報告および予算修正（予算修正のみ審議）

資料（4）

樋口 Treasurer より、資料に沿って以下のとおり報告があった。

収入は予算に変更はなく、各支部からの Section Assessment の拠出が済んだ。多めになっているのは、135 円での予測が 153 円強での拠出になったため。支出では、MAW 及び関連費用を追加した。前回の理事会で、東京支部から IEW について予算申請があり、承認されている。現状の中間会計については、SB 支援費では SBLTW で予算が執行され、新ブランチへのバナー作成等に使われる。コーディネーター活動費も進捗ないが、SYWL 参加費用として予算が執行されていくと理解している。Section Assessment ついては例年通り還元されている額が記入されている。Section 支援費は一部報告書の内容確認中であり、確認がとれ次第、お支払いする。

5. 各支部 2024 年前回理事会以降の活動報告

5-1 仙台支部

資料 (5)

村岡仙台支部 Chair より以下のとおり報告があった。

年次総会を 4/8 に開催。総会では仙台支部の Senior Member への昇格者を紹介し、メダルを贈呈。参加者は 48 名だった。総会の中で新 Fellow の記念講演会も開催。田中陽一郎先生が Fellow になれた研究である垂直磁気記録に関連した講演を依頼した。Student Session は計画を作成してある。8/29~8/30 に電気関係学会東北支部連合大会で英語の発表で学生主体の学会を開催する。英語に対する学生の習熟を期待している。電気関係学会には Award がないため、がんばった学生に対して Award を授与し、奨励しようという試み。Affinity 活動で LMAG 講演会を開催。WIE のイベント「欲張ったキャリア構築 ~みんなで語ろう my case ~」を開催。Section 運営に関する会議を 3 回開催し、実行計画の調整を行った。

5-2 信越支部

湯川信越支部 Chair より以下のとおり報告があった。

基本的に例年と同じ。役員会は JC 理事会終了後、報告も含め、7/11 に開催予定。WIE 東京・信越のアクティビティを信越支部の活動として記載している。選挙のやり方が変わるということについて、MGA が提示しているやり方での選挙を進めることを検討中。

5-3 東京支部

佐田東京支部 Vice Chair より以下のとおり報告があった。

6/14 に第 2 回理事会を開催。年 2 回は各企業の拠点で理事会を開催し、その企業の拠点紹介や新しい取り組みなどを学ぶようにしている。今回は私が所属している東芝の新棟で開催。ここは、共創と研究とそのものを実験の対象とするという建物。そして、IEW2024 の登録がスタートしている。R10 の SYWL2024 と連携している。SYWL2024 は東京代々木にある会場で 8/28~9/1 に開催、IEW は 8/31 に同会場で開催予定。全体のプログラムとしては、相澤東京支部 Chair の挨拶、Thomas IEEE President の講演、大企業からは東芝、大日本印刷の講演がある。ベンチャーからはマンガ翻訳をやっている Mantra、水中ドローンをやっている MizLinx、サイバーエージェントの講演もある。積極的なご協力をお願いしたい。

5-4 名古屋支部

河口名古屋支部 Secretary より以下のとおり報告があった。

主要事業は役員会と諸選挙。選挙に関しては仕組みが変わったため、調査の必要がある。後ほど情報交換したい。3 月に R10 の Robotics Competition を名古屋地区で開催し、2 チームが入賞したため、R10 のステージ 2 に推薦している状況。ニュースとしては、トヨタプリウスの申請を 2 年前からしていたが、受賞が決定し、10/30 に贈呈式をトヨタ会館で開催予定。SYWL2024 には SB、YP から派遣予定。

5-6 四国支部

丹治四国支部 Chair より以下のとおり報告があった。

SYWL2024 は 8 名の参加で準備中。Section 役員 2 名、Brunch 4 名、WIE 2 名、YP 1 名。感謝状ノミネートは 1 名推薦した。IEEE 本部 HC 委員からの依頼により、平賀源内記念館のエレキテルを IEEE Milestone 認定に応募するための Support letter を発行した。役員選出に関しては、情報が得られておらず、例年通りにやろうと考えていたが、再検討が必要と理解した。従来は電気系の連合大会の際、各学会と合同で学生交流会等を行っており、こちらに IEEE も参加予定。それ以外は会員の学生が参加できるように、懇談会等を開催予定。

5-7 広島支部

増田広島支部 Chair より以下のとおり報告があった。

講演会等については、理事会に合わせて例年開催している。今回、2 回の理事会に合わせて開催した。HISS という学生のシンポジウムの実行委員会に合わせて講演会を開催している。HISS 関連では、第 1 回実行委員会を幹事校である広島市立大学を会場として開催。内容は支部の理事・役員の紹介、講演会。学術会議の運営について、広島大学の田岡先生にご講演頂いた。HISS の実行委員会の会合が開催された。新設された HISS 連絡会をオンラインで開催。JC から費用を承認された。プログラム集は作成しない方針を確認。理事会では主に、HISS の新体制について議論し承認された。JC 感謝状は 3 名推薦した。企業の Friend of IEEE Award は杉江氏からアドバイスもらい、広島のマイクロン財団を推薦することになった。

5-8 福岡支部

早見福岡支部 Secretary より以下のとおり報告があった。

LMAG の設立が正式に承認された。本部の承認が 4 月、6 月に設立総会を経て正式に発足した。電気情報関係学会九州支部連合大会を毎年実施しており、5 年に 1 度回るが今年 IEEE が当番。9 月に LMAG 設立記念講演会を開催予定。連合大会電気情報関係学会を九州支部も 9 月に開催予定。支部役員の改選も予定している。

6. 札幌支部の最近の活動ご紹介

五十嵐札幌 Chair より以下のとおり報告があった。

IEEE Idea Jam 2024 をはこだて未来大学の角先生が主催した。女子学生を中心としたアイデアソンであり、盛会のうちに終わった。学術講演会は 3 件予定。共催事業は例年通り電気・情報関係学会北海道支部連合大会を共催予定。連合大会では、学生を中心とした交流会を開催しており、札幌支部もサポートしている。

筒井札幌支部オブザーバーより以下の紹介があった。

北海道エリアの支部連合大会で2016年より開催している学生主体のイベントについて紹介する。それまで学生主体のイベントがなかった中、工夫して継続し、SB設立にもつながった。支部連合大会は6大学で運営しているが、道外参加も歓迎。9月上旬が申込締切、11月初旬に開催予定。

角札幌支部オブザーバーより以下の紹介があった。

自治体と企業の課題を情報技術とデザインで解決するアイデアソンである IEEE Idea Jam 2024 を開催した。複数企業のスポンサーも付き、学生参加者の半数が女子学生、学生からは他地域や他大学の学生との交流ができたことに対して大変好評だった。

<原崎 Vice Chair からの報告3つをまとめて報告>

7-4 Industry Promotion Committee

原崎 IPC Chair より以下のとおり報告があった。

第2回のIPCを5/31に開催し、SYWL2024の準備状況、IEW2024、Tom IEEE Presidentの企業訪問スケジュールを共有した。また、2025年4月開催予定のVICサミットにつき、IPCメンバー、JO、橋本 Past Chair も参加され、当サミットについて紹介。企業スポンサーが求められていることについて説明があった。企業としては同年度の開催となるが、HTC2025についても企業スポンサーの募集計画について説明があった。これは元々11月までに次年度の予算計画をするため。VIC サミットは実行委員会の立ち上げをすべきとの結論に至り、東京支部及び関西支部の各幹事会社に対して、実行委員の選出の相談をした。既に東京からは三菱電機、日立から実行委員を出してもらうことになり、関西からは三菱電機の次の Secretary になる方が実行委員会に参加いただく。

8-1 Long Range Strategy Committee

原崎 LRSC Chair より以下のとおり報告があった。

LRSCも5/31に開催。4つのアクションアイテムとして進捗管理している。国際会議の誘致方法についてのガイドラインづくり、Fellow関係の講演会等進捗、高等教育、長期的に各支部が国際会議を誘致した場合に重複を避けるための管理の4つである。当日はこれに加えて、SYWLの進捗報告、Tom IEEE Presidentの来日した際の企業訪問について、IEWの進捗、HTC2025の報告もあった。宮永 Chair より、四役と議論してもらった、JCの感謝状について。JCの役員選出について。感謝状に関しては、この時点では3支部からの候補者のみだったため、各支部にリマインドを送り、結果、たくさんの候補者の推薦があった。

10-1 SYWL2024 報告

原崎実行委員長より以下のとおり報告があった。

7/3 の時点で申込者数は 321 名。Tom IEEE President、次期 IEEE President 夫妻、決定した Robotic Competition 10 チームの Final ステージの参加者、スポンサー企業の参加者を合めると 346 名になる。会議場やレセプションホールの上限定員が 300 名のため、リモート会場の設営準備を検討中。課題は山積しており、宿泊部屋もキャンセル待ち状態。290 名分の宿泊先を準備しているが、足りていない。日本国内からの参加者は 154 名。官公庁の実証実験に応募結果を待っていたため（助成金があると参加費が変化するため）、クレジットカード請求は来週になる。観光財団からの助成金は交付が決定されているが、観光庁からの実証実験提案については交渉中。この状況から当初の予定通り参加費を集める予定。今の円安状況であれば、海外の方々には安く、参加しやすい価格である。

7. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

7-1. Chapter Operations Committee

資料 (7-1)

高村 COC Chair より以下のとおり報告があった。

懸案だった、Chapter 支援審査の一部が今年 1 月に東京支部への移行が完了し、引き続き他支部への移管準備もはじめている。COC 定例ミーティングを月 1 以上行っている。Award 登録申請 15 件、Chapter 支援費申請 5 件を審査。今年からは東京支部の分は除かれている。全体会議を年 2 回開催。1 回目は 5/21 に機械振興会館で開催した。Chapter 向けの質問 Box は 6 月下旬からキントーンアプリ上で開設。予算をコロナの間は減らしていたが、また戻っている。1 回の支援額を増額したことを維持している。2023 年の Award の登録は 71 件で今年は Award の登録 38 件 (5/10 時点)。今後の活動予定は、JC History Committee 会議に参加予定。2024 年度第 2 回 COC ミーティングは 11/13 に開催予定。COC 三役と事務局による月例ミーティングは 7/22 実施予定。

7-2. Student Activities Committee

資料 (7-2)

小澤 SAC Chair より以下のとおり報告があった。

主に今年度の Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW)での全国の学生ブランチの情報交流及び SYWL2024 の準備状況について情報共有したい。まず、SB オンラインセミナーを実施し、各 SB の運営の仕方、イベントのリポーティング、vTools の使い方、SYWL2024 の説明などを共有。6/29 に JC SAC 活動委員会を SBLTW と SYWL についての情報共有。SBLTW の開催準備として、8/29 に SYWL の初日に同会場で開催。これに伴い、学生の募集を 3 回行った。更に今年度は SYWL もあるため、各 SB から 2 名の参加に加え、2 次募集の際には更に 2 名の枠をとり、追加募集をした。東京支部内でも 3 次募集をし、SBLTW には 52 名(36 SB 中 23 SB が参加)の参加者。SBLTW は R10 の Welcome のレセプション前に開催しているため、興味があれば当日申込み可能。

7-3. Awards Committee

資料 (7-3)

浅井 AC Chair より以下のとおり報告があった。

資料提出後に横浜国大の川村敦夫先生が Miliun UL Power Electronics Award を受賞。来年の Award に向けた Nomination の Deadline が 6/15 だったが、日本から少なくとも 4 件の Nomination がある。そのうちの 1 件をサポート中。今後は、将来の推薦に向けて候補者の抽出を行う。抽出には支部、FESC と連携している。推薦支援のために成功事例の収集の検討を進めていて、受賞者の Nomination Form を AC で預かり、推薦の呼びかけの際にレファレンスとして提供することを検討中。推薦の促進のために、VIC サミットの活用を検討する。東京開催の VIC サミットで表彰されると、日本でも注目を浴びることになるので、日本からの Nomination を促す効果が期待される。先ほどの原崎さんの報告にあった、VIC 実行委員会への三菱電機からの参加者は私と IPC の杉浦が参加する。

8. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

8-2. History Committee

資料 (8-2)

白川 HC Chair より以下のとおり報告があった。

HC の仕事は Milestone の発掘と承認を得ること。近年、年齢の問題で辞めたいのだが、後継者がいない。後継者を考えて頂きたい。

8-3. Awards and Recognition Committee

資料 (8-3)

大野 ARC Chair より以下の通り報告があった。

南 ARC Past Chair の急逝にちなみ、私が引き継がせて頂く。かなり綿密な資料を残して下さったので、それに沿って進めていく。今年度の Japan Council Outstanding Volunteer Awards のスケジュールは、今の審議にて、方針を決めさせてもらい、Call for Nomination を進めたい。以前作られたスケジュールは過ぎてしまったため、9 月末と決定し、受賞者の決定・表彰は 12 月。昨年 of のスケジュールに沿って進めていく。Committee の構成については、新旧四役にお願いすることになる。体制の強化のため、Vice Chair、Secretary の選任について、自薦他薦を募集している。Volunteer Award の Nomination Form についても昨年のままであるが、確認いただきたい。

異議なく、提案は承認された。

8-4. Fellow Elevation Support Committee

(資料 8-4)

高村 FESC Chair より以下の通り報告があった。

ウェビナーを 10 月、12 月に開催を予定している。登壇者は奈良先端大学の浦岡先生。Committee 委員会はまた開催していない。インダストリーの資格充分な方々の発掘に関しては、QR コードの発明者に最初は快諾もらっていたが、進んでいない。Fellow Committee (Fellow

の最終審査をする機関)の日本人メンバーが少ない(過去は5名、現在は2名)ため、増員を目指し、自薦他薦のメールを配信、7名から反応あり、3名は自薦を済ませた模様。JO主催の Fellow ばかりが登壇するウェビナーに参加した。今後の活動予定はウェビナー開催を10月頃に開催予定。

8-5. Promotion Committee

資料 (8-5)

大野 PC Chair より以下のとおり報告があった。

会員、非会員向けの SNS 運営を東京農工大、東京電機大の SB のボランティアの協力のもと運営している。新しく始めたことが、JC の HP に更新情報を掲載することを拡充すべく動いている。今回は New Senior Member のリストへのリンク、メダルの写真を掲載した。フォロワー数は施策を検討中。学生アシスタントは7月に更新予定だが、現在の学生アシスタントがよく頑張っているので引き続きお願いする。

9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

9-1. Membership Development

資料 (9-1)

真田札幌支部 MD 担当より以下のとおり報告があった。

6/24 に MDC オンライン会議を開催。各支部の情報共有など、資料にある議題で議論した。シニア申請支援や各支部会員数・SM 昇格者数の推移の情報共有があった。

9-2. Young Professionals

(資料 9-2)

塩見 YP Coordinator より以下のとおり報告があった。

YP では引き続き、全国支部にある YP の活性化とノウハウの共有を目標に共同のイベントを毎年やろうとしている。YP Study Lab は勉強会イベントで、仙台、関西、東京の3つの YP で共催。仙台 YP は GitHub とチャット GPT を使った個人 HP 作成、関西 YP は Overleaf の勉強会を行った。80名程の参加者があり盛況だった。YP Meet は参加したメンバーでノウハウを共有する目的で行っている。大変好評で、次のイベントの構想なども話されている。現在の収支だが、予算内で開催している。今後の予定は、Career Lab を大阪で開催予定。関西 YP、名古屋 YP との共催。関西と名古屋から7名のゲストスピーカーを呼び、パネルディスカッション形式でキャリアについて語るイベント。

9-3. Life Members

(資料 9-3)

津田 LM Coordinator より以下のとおり報告があった。

4月に福岡 Section に日本で6番目の LMAG が設立された。Section のジョイントで LMAG をつくることも含め検討したい。SYWL2024 の LAMG トラックの設定。現在3 Section の構成で考えている。日本国内からは東京、名古屋 LAMG からの講演、今井先生からの Milestone の講演をお願いすると同時に、Section Chair として札幌からの講演をお願いしている。今後

は、R10 SYWL に合わせ、JC の LMAG Chair の会合を対面で開催予定。R10 LMAG Chair としての活動だが、LMC 会議を 6/2 に開催。LMAG Chair 会議を 6/9 に開催。LMAG として他のアクティビティへの協力を考えており、LMAG Chair 会議で R10 の HC Chair の尾上先生に HC の案内をしてもらった。今後 SAC に対してグループメンタリングシステムをやっていくことを考えているため、今回は SAC にも引き続き相談したい。

9-4. Educational Activities

(資料 9-4)

大越 EA Coordinator より以下のとおり報告があった。

4/12 に各 Section の EA とミーティングを開催。信越支部は昨年の MAW の経験後、SB を中心に学生の講演活動などの EA に関する活動について報告。東京支部の Coordinator は YP Chair も兼ねている石垣さんのため、東京支部は YP 活動と連携している。支部によって特徴がある。名古屋支部は理科教室の協賛、関西では LMAG と WIE が中心となって EA 活動を行っている。広島、四国支部でも学生の SB など、SB と WIE、YP、LMAG が実働的な活動になる。4 月に本部主催の Educational Week があったが、来年もアナウンスを強めたい。LMAG と学生とのつながりに関したイベントを検討したい。EA 中のエンジニアスポットライトだが、これまでにないテーマで関連先と連携をして年内 4 件を準備している。

質疑応答では、EA の HP における活動案内においてイベントがない状態になっているので、各支部にイベントの登録をお願いしたいとのコメントがあり、大越 EA Chair から対応するとの回答があった。

9-5. Women in Engineering

(資料 9-5)

井上 WIE Coordinator より以下のとおり報告があった。

活動報告としては、各支部の活動で、既に札幌支部、仙台支部の報告にあった通り。昨年はメーリングリストを作成したが、それを活用して各支部で連携しやすくなっている。R10 の WIE でも Member で、SYWL2024 の WIE のトラックに関して協力した。日本から若い研究者に発表してもらい、女性の活躍について講演頂く。2 日目 (31 日) のセッションでは、日本の方にも協力頂いている。関西支部で毎年開催しているシンポジウムを 10/5 に立命館大学の大阪いばらきキャンパスで開催予定。大阪からも京都からも便が良いところ。ハイブリッド開催なので、都合がつく方はぜひご参加下さい。

10. その他 (順不同: 10-1 SYWL2024 については既報告済、10-2 HTC2025 については後)

10-3 Japan Council 感謝状について

(資料 10-3)

宮永 Chair より以下のとおり報告があった。

第 1 回目で 15 件の推薦が上がっている。昨年の 12 月に理事会で内容説明し、3 月に確定。推薦期間は 3/23~6/14 としたが、ガイドラインも含めて送った。長年にわたる貢献と、重

要な単一事業に関する貢献の2つに関して推薦をお願いしたが、4つのカテゴリーに分かれた。1つ目は Section の運営関係の貢献、2つ目は JC 委員会への貢献、3つ目は SYWL 関連のイベントに関する貢献、4つ目は JC 主催の国際会議の運営など。各カテゴリーで推薦の内容が条件に合っているか審議した。推薦の15件とも多大な貢献を称えて、JC 感謝状を贈りたいと考えている。これからの手順としては、非推薦者に連絡をし、タイトル(英語)を考えたいと思う。

10-4 MGA Award と Senior Member 申請関連のスケジュール 資料 (10-1)

杉江 IEEE Admission & Award Recognition Committee 委員より、以下のとおり報告があった。

MGA Award は年に2回あり、1回目は5月。秋は9/15が締切となる Award が昨日発表になった。JC から皆さん宛てにメールが届くと思う。Friend of IEEE MGA Award (Individual & Organizational (Supporting & Sustaining))は1年中受付しているので応募してほしい。来年5月に Outstanding Section Award (Large, Medium, Small Section Award)、William W. Middleton Distinguished Service Award (3年ごと)がある。興味がある方は準備してほしい。2月後半に募集があると思う。Senior Member の Nomination は、7/27、9/21、11/16が申請の締切日となる。積極的な申請をお願いしたい。申請に対する Q&A が資料にあるサイトにあるので活用頂きたい。

10-2 HTC2025 の報告 資料 (10-2)

滝嶋 HTC2025 運営委員長より以下の通り報告があった。

Humanitarian Technology は広い範囲のことであるが、日本各所、企業、アカデミアに関わらず、広い範囲で関心を持っているテーマを扱う国際会議。第1回が2013年に始まり、東日本大震災からの復興をテーマにした。2013年は仙台支部の尽力により開催され、その後は R10 の各国で開催され、今回が日本で2回目の開催となる。研究発表、国際会議、キーノートスピーチ、招待講演、チュートリアル、ワークショップ、交流イベントなどを予定。9/29～10/1の3日間を予定しているが、9/28に関連の別の活動が開催される可能性もある。場所は東京支部の中の千葉商科大学に会場提供してもらう。

テーマは“Beyond SDGs – A New Humanitarian Era with Intelligent Partners –“ 2030年に向けての総決算、その後 SDGs の活動について考える機会にしようという概念。定員は200名を予定。東京支部、R10、会場提供の千葉商科大学が主催、協賛。今回お願いしたい事項は、今後 CFP の発行になるが、論文募集や参加募集の協力、支部で紹介協力をお願いしたい。MOU を必要としないご協力をお願いしたい。仙台支部とは事前に打合せをしており、特別セッションの企画をしている。他の支部でも何かあれば相談してほしい。

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

奥村 Secretary よりメール審議記録について、資料を参考にするようアナウンスがあった。

理事会全体に対する質疑応答では、東京工業大学と東京医科歯科大学が東京科学大になることに伴い、会員数のカウントやJC で必要な対応について議論があり、小澤 SAC Chair がJO に確認してみるとのコメントがあった。